

公 表

第 17 回若年者ものづくり競技大会「建築大工」職種 競技課題

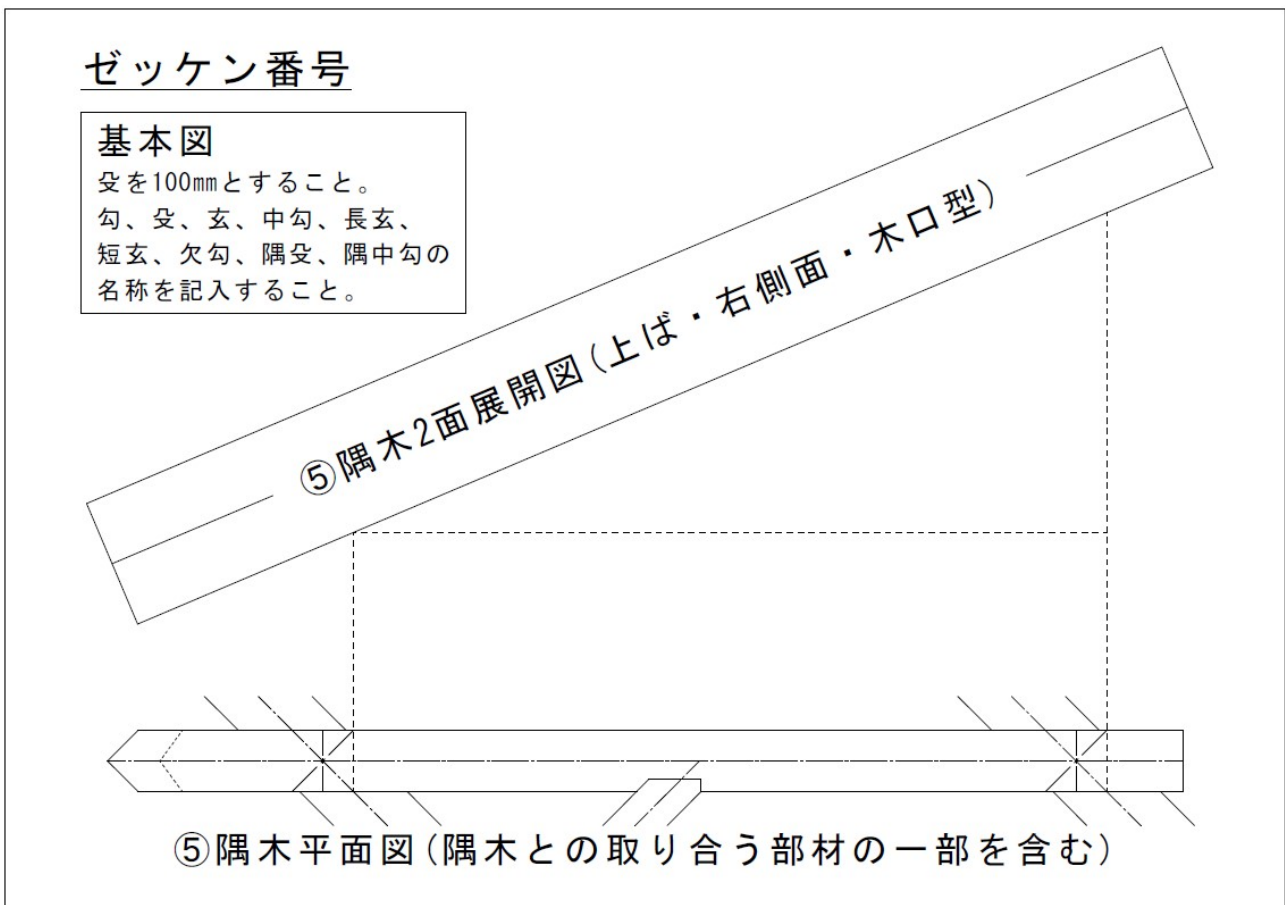
支給された材料を用い、次の仕様、課題図及び注意事項に従って、現寸図を描くとともに、木ごしらえ、墨付け及び加工組立てを行いなさい。

1. 競技時間

標準時間 5 時間 15 分 打切り時間 5 時間 30 分

2. 仕様

- (1) 現寸図は用紙を横に使用し、基本図、平面図（隅木と桁・棟桁・たる木取り合い部）、隅木展開図（上ば・右側面の 2 面展開図と木口型）を描き、提出すること。提出された現寸図は、採点終了後に返却するが、採点中は次の工程（木ごしらえ）に移ってよいものとする。



(2) 木ごしらえ

イ 部材の仕上がり寸法は、次のとおりとすること。

部材名	仕上がり寸法 (幅×成)	単位 : mm
①柱	50×50	
②桁	50×60	
③登りばり	50×60	
④棟桁	50×60	
⑤隅木	40× (現寸図による)	
⑥たる木	30×40	
⑦飼木 (ねこ)	50×50	

ロ 隅木は、上ばを所定の山勾配に削り取っておくこと。

ハ かなな仕上げは、中しこ仕上げとすること。

(3) 墨付け

イ たる木の平勾配は、6/10の勾配とすること。

ロ 加工組立てに必要な墨 (本中を含む) は、すべてつけること。

なお、下書きを鉛筆ですることは差し支えない。

ハ 峠は桁及び棟桁の上ばより 6mm 上がりとすること。

ニ 隅木が桁及び棟桁に落ち掛かる箇所は、桁及び棟桁の落ち掛かり部のみの加工とする。

ホ 隅木の立水は、たる木立水に合わせること。

へ 隅木の棟桁芯からの出は入中より水平に 50mm とし、立水に切ること。

ト 隅木の上ばには、たすき墨および馬乗り墨を出すこと。

チ 登りばりの勾配は、1/10 の勾配とし、大入れあり頭の先端上ばを桁上ばに合わせる  
こと。

リ 登りばりと柱の取り合い部は、通しほぞ差しとし、柱面 15mm 出しとすること。ほぞ  
成は材成 (上部は陸に加工)、厚さは 18mm とすること。登りばりの大入れあり頭の  
先端上端を桁上端に合わせること。

ヌ 柱と棟桁の取り合い部は、短ほぞ差しとし、寸法は、幅 50mm、厚さ 18mm、長さ 30mm  
程度とすること。

ル 柱には、芯墨 (4 面)、峠墨 (4 面)、棟桁のほぞ墨及び登りばり穴墨を入れること。

ヲ 桁及び棟桁には、上ば及び下ばの芯墨、たる木及び隅木の位置隅 (口脇墨) を入れる  
こと。

ワ 登りばりには、上ば及び下ばの芯墨、桁及び柱との取り合い墨、峠墨 (両側面) を入  
れること。

カ 隅木は、課題図に基づき墨付けをすることとし、上ば及び下ばの芯墨、入中、出中及  
び本中の墨を入れること。また鼻の側面の切墨は、投墨とすること。

ヨ たる木は、課題図に基づき墨付けをすることとし、上ば及び下ばの芯墨を入れること。  
また、桁芯の位置を上ば及び両側面に入れること。

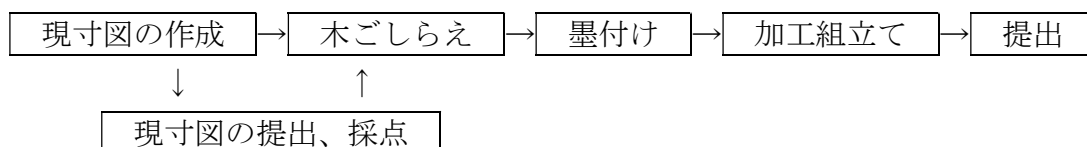
- タ 飼木（ねこ）には、取り合いの芯墨（正面と背面の2面）を入れること。
- レ 飼木（ねこ）を除く、材幅芯及び口脇墨（上ば、側面）は通しで墨打ちすること。
- (4) 加工組立て
  - イ 加工組立ては、課題図のとおりとし、順序は任意とする。
  - ロ 各部材の取り合いは、課題図のとおりとすること。
  - ハ 取合い部を除く全ての木口はかな仕上げ、糸面取りとすること。
  - ニ 飼木（ねこ）の桁への止め付けは、飼木（ねこ）木口より桁へ、それぞれ2本の釘で固定すること。（課題図のとおり）
  - ホ 芯墨、取り合い墨は、残しておくこと。

### 3. 作品の提出

- (1) 課題作品は、指定の位置に釘止めし、組上がった状態で提出すること。
- (2) 組立てが完了した選手は、競技委員に申し出てゼッケン番号を記入した荷札を作品に付け、指示する場所に提出すること。
- (3) 提出した作品はいかなる理由があっても、選手は一切手を触れることはできない。提出後は作業場所の清掃を行い、委員の指示に従ってすみやかに退場すること。

### 4. 注意事項

- (1) 支給された材料の寸法及び数量等が「支給材料」に示すとおりであることを確認すること。
- (2) 支給された材料に異常がある場合は、競技開始前までに申し出ること。
- (3) 競技開始後は、原則として支給材料の交換は行わない。
- (4) 指定した工具以外のものは使用しないこと。
- (5) 競技中は、工具等の貸し借りを禁止する。
- (6) 競技時の服装等は、作業に適したものであること。
- (7) 作業エリアは整理整頓し、道具は正しい姿勢で正しく使用し、ケガ等に注意して安全な作業を厳守すること。  
※競技委員が危険な作業と判断した場合は注意をする。従わない場合は作業を中止させることがある。
- (8) 標準時間を超えて作業を行った場合は、超過時間に応じて減点する。ただし、打切り時間を過ぎた場合は、失格とする。
- (9) 作品が完成した時は、競技委員に申し出ること。
- (10) 提出する現寸図には、左上にゼッケン番号を記入すること。
- (11) 作業順序は以下のとおりとすること。現寸図を提出した後、木ごしらえに移ること。



- (12) 競技エリア内での携帯電話・スマートフォン・通信機器等の使用は禁止とする。
- (13) 作業中の水分補給、及びトイレについては制限しない。ただし、それにかかる時間は作業時間に含まれる。

## 5. 支給材料

支給材料の材種は、「カナダツガ」上小節材程度の材料を予定しているが、当日材種等が変更されることもある。

部材名	寸法又は規格 (mm)	数量	備考
①柱	400×51.5×51.5	1	
②桁	600×51.5×61.5	1	
③登りばり	500×51.5×61.5	1	
④棟桁	300×51.5×61.5	1	
⑤隅木	850×41.5×52.5	1	
⑥たる木	400×31.5×41.5	1	
⑦飼木 (ねこ)	300×50×50	1	切り使いとする
釘	N45 柱－棟桁 桁－飼木 (ねこ) たる木－隅木 削り台用 (5本)	14	予備を含む
	N65 たる木－桁	2	
	N75 隅木－桁・棟桁	3	
現寸図作成用紙	ケント紙 A1 594×841	1	

## 6. 使用してもよい工具類

さしがね、直定規、三角定規 (勾配定規は不可)、まきがね (スコヤ)、自由がね、墨さし、墨、かんな、のみ、のこぎり、きり、げんのう、かじや (パール)、けびき、釘しめ、電卓 (計算機能だけのものに限る)、鉛筆 (シャープペンシルも可)、消しゴム、あて木、養生用の布・滑り止め、はねむし (釘でもよい)

※数量は自由とする。ただし一般に市販されている物か市販品と同等のものに限る。

## 7. 会場に準備されているもの (単位: mm)

作業台 600×105×105 程度 2 台、作業床 (合板) 910×1820×12 程度 1 枚  
削り台 1200×105×105 程度 1 台、削り台止め 900×45×18 程度 1 ケ、  
選手の作業エリアの床面積は、選手 1 名当たり最低 2000×2000 とする。